

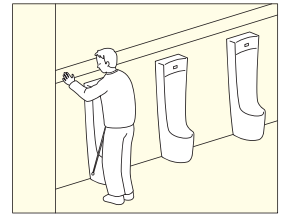
# 男性視覚障がい者にとっては “小便器探し”もバリアの一つ

男性用トイレの場合、小便器がオープンなスペースに配置されているため、位置を把握したり、立ち位置を見つけるのが難しいという声が多くありました。男性視覚障がい者の小便器利用の実態についてレポートします。

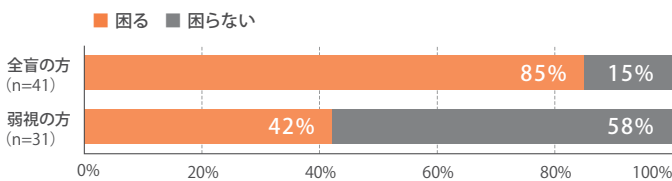
調査データ:「視覚障がい者のパブリックトイレ利用実態調査」(LIXIL / 2018)

## とくに全盲の人は小便器の位置の把握が難しい

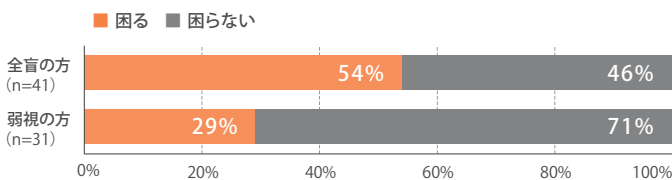
「小便器の位置を探すこと」・「小便器の立ち位置を探すこと」については、弱視の方に比べて**全盲の方がより困っている**ことがわかりました。実際に位置を把握する方法としては、全盲の方・弱視の方問わず、「**白杖と手で触って確認する**」という人が多いようですが、手の汚れを気にしたり、他の人に迷惑をかけないよう個室を利用するという声もありました。



### Q. 小便器の位置を探すのに 困ることはありますか？



### Q. 小便器の立ち位置を探すのに 困ることはありますか？



### VOICE 小便器の探し方は？

#### 全盲の方

小便器の位置を探すのは、白杖と声かけ。

汚したり、迷惑かけたりしないように個室に入り座って用を足す。

小便器を触ると手が汚れるので、背面壁を触って、小便器との距離を確認している。

#### 弱視の方

「小便器があるな」と思ったら、便器の上の方を手で触る。

便器の両端を触ってここが真ん中だとわかる。

### SOLUTION

#### 視覚障がい者に配慮した小便器スペースの工夫

##### idea 01

壁面と小便器の色のコントラストで、小便器の位置をわかりやすくする。

##### idea 02

小便器と小便器の間にスクリーンを設けることで、壁面部に用を足してしまうことを防ぐ。

##### idea 03

手すりを設置することで、小便器までの距離を把握しやすくする。



# 洗浄方式の多様化で求められる 「操作ボタン位置の規格化」

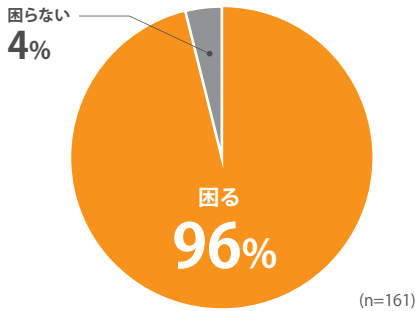
近年、パブリックトイレも、センサー式洗浄や自動洗浄といった“高機能化”が進みました。しかし、洗浄方式の多様化や操作の複雑化によって戸惑う視覚障がい者も少なくありません。この課題の解決策として、「操作ボタン位置の規格化」が重要なポイントになります。

調査データ:「視覚障がい者のパブリックトイレ利用実態調査」(LIXIL / 2018)

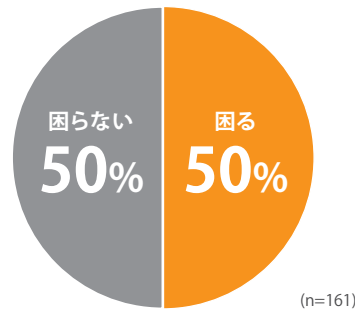
## 多様化する大便器の洗浄方式

大便器の洗浄方式についてたずねたところ、「**ボタンやレバーの位置を探すのが困る**」と回答した人が**96%**と最も高い結果に。「**自動洗浄が困る**」人は**50%**程度とボタンやレバーを探すことに比べ半減するものの、「**センサー式洗浄**」については**80%**以上が困ると回答しており、センサーの位置認識に困っていることがうかがえます。

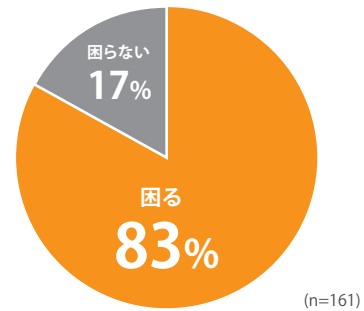
Q. ボタンやレバーを探すのに困ることはありますか？



Q. 自動洗浄で困ることはありますか？



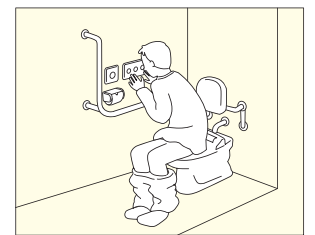
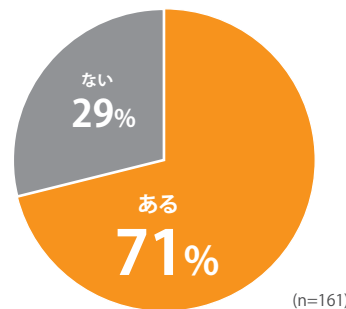
Q. センサー式洗浄\*で困ることはありますか？



## ボタン操作の複雑化も大きな課題

Q. 間違えて「非常呼び出しボタン」を押してしまった経験がありますか？

視覚障がい者の**70%**以上が「**流すボタンと間違えて非常呼び出しボタンを押してしまった経験がある**」と回答。トイレの高機能化によって、操作ボタンが増加し、その配置もトイレごとに異なるケースが多いため、押すボタンを間違ってしまうケースも多いようです。



### SOLUTION

#### ボタン配置の規格化により トイレ利用者の混乱を解消

2007年、経済産業省は、パブリックトイレの操作ボタンの配置を規格化(JIS S 0026)。共通ルールの設定により、視覚障がい者等のトイレ利用者の混乱を解消するこのアイデアは、2015年には国際規格となりました。多機能トイレはパッケージ化が進み、「JIS配列」が普及してきていますが、今後は一般トイレへのさらなる普及が求められています。

